



KPU NEWS



新年のご挨拶

理事長 武田 禮二

新年あけましておめでとうございます。

皆様方にはご家族共々よい年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

昨年は、ギリシャ債務危機に端を発したヨーロッパ経済の陰りや新興国経済の減速等により、全世界的な経済停滞に陥りました。また、わが国に於いても伸び悩む経済や混迷する政治の下では、この先が見通せないのが現状です。

このような状況下、大学では少子・高齢化等により受験生が減少し、各大学に於いても厳しい局面を迎え、生き残りを掛けた対応・対策に追われています。一方、薬学では昨年3月に薬学教育6年制の第1期生が卒業し、医療現場等で活躍し始めました。その6年制薬剤師としての評価は良いように聞こえてきますが真の評価が出てくるのはまだまだ先の事です。昨年、中央教育審議会は将来予測が困難な時代における大学の責務として、若者や学生の「生涯学び続け、どんな環境においても“答えのない問題”に最

善解を導くことができる能力」を育成することがが大学教育の直面する大きな目標になると、答申しています。本学としては既に第2期中期計画で自立した学生の育成、即ち「薬学領域で力強く活躍できる幅広い人材育成を行うための教育力の構築」を目指して取り組んでいます。京都薬科大学生らしさを身に付けると共に、社会が要求する質の高いファーマシスト・サイエンティストとして輩出していくための仕組み作りに努めています。しかし、時には教育(仕組み)のみに頼るのではなく各自が積極的に研鑽を積むことも大切です。聞くところによりますと、最近の若い人たちは何事に対しても失敗を恐れチャレンジすることを嫌う傾向にあると言われていたようです。総じて、行動を起こす前は100%の成功を期待しますが、その結果は往々にして期待外れ(失敗)な事が多いものです。昨年、iPS細胞の研究でノーベル医学・生理学賞を受賞された京都大学の山中伸弥教授は講演会で若い人たちに“失敗をしなさい”と繰り返しお話をされていました。これは実際に失敗を

CONTENTS

新年のご挨拶 理事長 武田 禮二	1~2	クラブだより	21~22
年頭のご挨拶 学長 乾 賢一	2	タイ王国のMahidol Universityと	
特集 京薬祭	3~7	学術交流協定を締結	22
異文化体験	8~12	第7回国際サイトプロテクション	
第98回薬剤師国家試験	13	シンポジウムに参加して	23
卒業生からのメッセージ	13	IPSF World congress・FAPAに参加して	24
バイオサイエンス研究センター 現場報告	14~15	受賞・掲載	25~26
2012年度後期試験日程	16	第18回京都薬科大学公開講座開催	27
Library News	16	推薦入試結果	27
教育後援会からのお知らせ	17	お知らせ	27
第3回KPUシンポジウム報告書	18~19	京薬会だより	28
2012年11月のオープンキャンパス開催	19	京都薬科大学寄附金ご芳名録	28
「医療チーム学生フォーラム」	20		

するために何かに挑戦することではありません。即ち、机上で物事を考えるだけでなく、先ず失敗することを恐れずに勇気を持って第一歩を踏み出す事が大切です。たとえその結果が失敗（いい結果がでない）であったとしてもそこから多くの事を学ぶことができ、そして最後にはいい結果が待っています。自動車の育ての親であるヘンリー・フォードは“失敗とは、よりよい方法で再挑戦する素晴らしい、機会である”と言っています。特に、学生諸君や若手

教職員の皆さん方には自分を磨くためにも、常に理想と好奇心を持ち、高い目標に向かってチャレンジする年にしてください。勿論、チャレンジに対する支援についても種々検討していきます。

皆さん、“一年の計は元旦にあり”と言われていきます。早々に今年目標を設定し、達成に向けて始動しましょう。

今年が皆様方にとって素晴らしい年になることを祈念し、新年のご挨拶といたします。



年頭のご挨拶 ～今、薬学は私学の時代～

学長 乾 賢一

新年あけましておめでとうございます。東日本大震災からの一日も早い復興、そして日本再生に向けた政治、経済などの速やかな前進を願いつつ、皆様それぞれに新たな夢や希望を抱いて新しい年をお迎えになられたことと存じます。

平成18年にスタートした薬学6年制は、大学、病院、薬局、行政など多くの関係者の辛苦を伴いながら、昨年3月には第1期卒業生を社会に送り出すことができました。新制度の卒業生に対する社会的な評価を判断するのは時期尚早ではありますが、おおむねポジティブな意見を耳にしています。病院や薬局に就職した新薬剤師のみならず、製薬企業に就職した者も、例えばMR職ではこれまでの新入社員と比べて特徴ある活躍をしており、やはり医療薬学教育や長期実務実習での経験が役立っているようであります。現在、2～3年後を目途に薬学教育コア・カリキュラムや実務実習の見直し作業が進められつつあります。また薬学教育の質を担保するために、薬学教育評価機構による各大学の教育評価も順次始まっています。このように薬学6年制の教育改革は、種々の問題を抱えているものの、おおむね順調に進んでいると言えます。

薬学の重要な社会的使命は薬剤師の養成であり、6年制学部が主たる役割を果たしていることは周知の事実です。平成24年3月に実施された新しい薬剤師国家試験において、8,182人の6年制薬剤師が誕生しましたが、大学設置形態別の内訳は、国立大学5.6%、公立大学2.3%、私立大学92.1%であります。新制度での特徴は、平成21年3月実施の試験結果と比べ国立大学の合格者数、割合が約半分に減少していることあります。参考までに平成24年3月の医師国家試験新卒合格者（7,110人）について同じような解析をしてみると、国立大学54.2%、公立大学8.8%、私立大学37.0%であります。薬剤師の養成は、医師の養成に比

べると私立大学の寄与が非常に大きいこと、そして薬学教育改革によってそれが一層増長されたことがわかります。医師不足、医療崩壊が社会問題化し、チーム医療が進む中で、6年制の質の高い薬剤師を養成して安全・安心の医療に貢献しているのは、紛れもなく私立大学であることを強調したいと思えます。同時に、多様化、グローバル化が進む社会において、大学、製薬企業、病院、薬局等における指導者育成の面から、6年制薬学部の上に立つ4年制の大学院博士課程の重要性について指摘したいと思えます。すなわち、薬剤師免許を持った薬学博士の輩出は、変革する医療や製薬産業界に新たな活力をもたらすと確信します。

翻って本学の現況を眺めてみますと、本学は薬学の未来を拓くために一歩先行して、研究能力を有する薬剤師すなわちファーマシスト・サイエンティストの育成を掲げて、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた人材育成を進めています。また、新しい4年制博士課程は、国立大学の薬学研究科にも勝る勢いの、規模と内容の大学院として出発することができました。本学の歴史と伝統を礎として、今、教職員、学生などすべての構成員が一枚岩となって特徴ある教育・研究活動を展開し、情報発信を続けていますが、これは本学の大きな誇りであり喜びであります。今年もKPUの旗を振り続けたいと思っておりますので、絶大なるご協力をお願い申し上げます。

最後に皆様のご多幸、ご活躍をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

特集

京菓祭

今年の京菓祭は如何でしたか。この時期には帰省するという学生諸君もいるかも知れませんが、祭りに参加し楽しみまた苦勞した諸君はこれまでと違った光景を会場内で見たことと思います。つまり、小さなお子さんを連れた近隣の御夫妻を多く見たのではないのでしょうか。その理由が、学祭実行委員幹部の苦勞話と共にここに明らかにされています。

この“こどもランド”という新企画により、学内と学外近隣の人々との交流が盛んになり、しかも幼稚園年代の子ども達に科学の面白さを感じてもらうことが出来ました。さらに同時に学生諸君が子ども達と触れ合うことで、コミュニケーションの基礎を学ぶことが出来たようです。

今後ともこの企画が一層盛んになることを期待します。

2012年度京菓祭を終えて

京菓祭が終わりほっとしている反面、何か物足りない思いを抱きながらこの文章を書いています。

まずは、昨年の京菓祭が終了後から、1年間共に今年の京菓祭をより良いものにするために考えてきた幹部を紹介します。

実行委員長 樋口 裕(3年次生、準硬式野球部)
副実行委員長 大杉 将士(3年次生、バスケットボール部)
文化部長 辻村 優依(3年次生、軽音楽部)
書記長 井上 麻美(3年次生、硬式テニス部)
会計部長 岸本はるか(3年次生、卓球部)
庶務部長 柴 俊輔(2年次生、軽音楽部)

実行委員会は上記の6名をはじめとして、全76名で今年の京菓祭を作り上げてきました(1年次生29人、2年次生23人、3年次生24人)。実行委員のほとんどが部活動に所属しているため、全員もしくは一部の人間が集まって、何回も打ち合わせを行うことが難しいのは毎年のことですが、特に今年の幹部に関しては、実行委員会だけでなく、部活動においても重役を担う人が多く、会議を行うことや、情報共有という面で大変苦勞しました。

私が実行委員会に入ろうと思ったのは、中学・高校では部活動と勉学にのみ励み、大学ではそれなのか、と考えたからです。学生の多くは、空き時間にバイトをして、お金を稼ごうとする人も多いようですが、それよりも得られるものが、この団体にはあると感じました。3年間この団体に所属し、努力することで、1つでもいいから何か新しいスキルを身に付けたいと思いました。この考えに加えて、高校時代に文化祭や体育祭などの行事が終わるたびに、もっと深く関わっておけばよかった、と後悔したので、この気持ちを払拭したいという思いもあり、実行委員会に入ることに決めました。

私が実行委員長となり力を入れたのが、当たり前ですが、学内・学外問わず、京菓祭に来て頂いて、楽しかった、また来たい、と思ってもらえるような学園祭を作ることです。毎年、最上級生の方々がこの感情を抱きつつも、なかなか達成できていなかったように感じたので、今年は新しいこと様々なことに挑戦し、採り入れました。今までの京菓祭の良いところに加えて、今回挑戦した新しいことにより、来場者の笑顔(クスリ)をたくさん作りたと思いました。そこで今年の京菓祭のテーマは

夢限大 ～菓よりも効くクスリがそこにある～

といたしました。

特に学外向けに関しては今まで働きかけがなく、身内だけの学園祭になりかけている部分があったように思われます。そこで私たちは、地域交流という点に焦点をあて、今回は幼稚園児向けの企画を行いました。この企画は2日間で数百人の来場者に参加して頂き、大盛況であったと思います。この企画・運営を行った実行委員に感謝すると共に、今後京菓祭にてこのような学外向けの催しを継続して行うことにより、近隣住民の皆様と学園祭を通してより良い関係を築き上げていけるよう、心から願っております。

実行委員として最後の京菓祭を終えて、実行委員長を務めた1年間はあっという間だったな、というのがとても印象強いです。その中で互いに切磋琢磨し、高め合ってきた実行委員には本当に感謝いたしますし、誇りに思います。まだ学園祭が終わったという実感があまり湧いてこないことに自分でも驚いていますが、実行委員や他の方々から、私が実行委員長でよかった、と思ってもらえていたら幸いです。また、京菓祭実行委員としての生活を通して得たものを、今後の生活で生かせるよう、現状に満足せず、これからも様々な場面で努力を重ねたいと思います。

次の京葉祭のために、既に活動している実行委員の後輩達には、京葉祭をさらに規模の大きなものにするために、1年間努力してほしいと願っています。

最後になりましたが、2012年度京葉祭開催にあたり、ご理解、ご協力を頂きました関係者各位の皆様、並びに近隣住民の皆様に深く感謝致しますと共に、厚くお礼申し上げます。

京都薬科大学学園祭実行委員会
2012年度実行委員長 樋口 裕

こどもランドを主催してみても

今年の京葉祭では、地域交流を目的とした新しい委員ができて、私達は“こどもランド”を担当することになりました。

こどもランドとは、近隣の幼稚園のお子さんや保護者の方に、馴染みの薄かった大学に足を運んでもらい、「堅い」というイメージをなくしてもらうことや、毎年京葉生だけで楽しんでいる学祭に地域の方にも楽しんでもらえるような学祭がしたいという目的のために考えました。そのため、何度も近隣の幼稚園を訪問させていただき、先生方と一緒に企画を練ってきました。

私達としては、薬科大学という特色を生かした誰でも簡単にできる科学実験をしたいと考えました。そして夏休みから準備に取り掛かり、10月からは子供の安全を第一に考え、何度も試行錯誤を繰り返し、学生実習支援センターの先生方や学生課の方々のご協力のもと実験や縁日の内容を決定することができました。

当日のこどもランドでは、縁日（ヨーヨーつり、魚つり、パズル、的当てなど）と家庭でもできる簡単科学実験（空気砲、ダイラタンシー、ペーパークロマトグラフィ、オブラートの溶解実験）を行いました。

縁日用の、パズルや魚、的などは全て実行委員が毎日地道に作ってきたものだったので、行列ができるほど並んで頂けたときは本当に感動し、それまでの1ヶ月半の苦勞が報われる思いでした。子供達も6つの縁日を何度も回り、各縁日の担当の実行委員と仲良く遊んでいて、実行委員も普段あまり触れ合うことのない子供達と楽しい時間を過ごすことができ、日々の勉強で疲れた心がとても癒され、また元気をもらうことができました。

家庭でできる簡単科学実験は、先生方も気にかけてくださり当日は学生実習支援センターの先生方および学生課の職員の方もこどもランドのスタッフとして参加して頂きました。事前に幼稚園で確認して頂いた参加人数よりも多くの参加者が集まってくださるということだったので、限られた人数で対応しきれぬのか不安でしたが、先生方のご支援ご協力のおかげで無事大成功に終わりました。実験が1時間おきにあったにも関わらず、何度も同じお子さんが足を運んでくれて色々な実験に参加してくれました。各実験で原理など

を説明したときは子供達よりも保護者の方の方が内容に興味を持ってくださり、実験について私達に色々質問をしてくれたのでこちらとしてもとてもやりがいがありました。参加して頂いた保護者の方々や子供達には、これらの実験を通じて科学をもっと身近に感じて頂けたのではないかと思います。

今回のこどもランド企画を通して、地域の方々が高まで以上に大学に足を運んでくださり学祭全体も活気溢れるものとなりました。今回参加して下さった保護者の方々から、「来年からもぜひこどもランド企画を続けてほしい」というご意見を多く頂いたので、こどもランドに限らず、地域交流を目的とした企画を後輩に受け継いでほしいと考えています。

最後になりましたが、この度こどもランド企画に携わってくださった近隣の幼稚園の先生方、保護者の皆様、学生実習支援センター及び学生課をはじめとする教職員の方々のご支援、ご協力に深く感謝するとともに厚くお礼申し上げます。

3年次生 伊藤なつこ
3年次生 谷口 麻美

教員から見たこどもランド

2012年度の京葉祭では、新しい企画の一つとして地域交流を深めることを目的とした“こどもランド”が京葉祭実行委員主催のもと、11月3、4日の二日間にわたって開催されました。本企画は、主に近隣施設の一つであるアヴェ・マリア幼稚園と寺西幼稚園（順不同）の園児を対象に、簡単な実験を通して自然の不思議を体験してもらうとともに、地域交流を深めるきっかけの一つになればと企画されました。このような地域交流は住宅地の中にある本学では特に重要な企画の一つであり、これまで山科地区の小学生を対象とした理科教室を学生実習支援センターが中心となって実施してまいりました。今回のこどもランドは対象を小学生に限定することなく、更に対象幅を幼稚園児にまで拡大した大変チャレンジングな企画であり、本学の学生が新しい試みへ食欲に挑戦しようとする前向きな姿勢の現れと捉えることが出来るでしょう。しかしながら、小さな子供を対象とした実験企画は多少なりとも危険を伴うことが懸念されるため、これまでの理科教室で多少なりともノウハウを蓄積してきた学生実習支援センター及び学生課の職員もサポートという立場で今回のこどもランドに参加させて頂きました。今回開催されたこどもランドでは、幼稚園の先生方が園児及び保護者の方々へ本企画の案内や参加斡旋を行って頂いたお陰で、下は1歳児から上は小学生まで保護者をあわせて総勢319名という非常に多くの参加者の中、次の4つの実験を学生及び教職員と共に楽しみました。これらの実験は全て学生が中心となって考案

された企画であり、小さな子供から大人まで安全かつ手軽に楽しむことが可能で、薬学生としての知識と工夫そして彼らのアイデアがたくさん詰まっているという印象を強く受けました。

まず初めにオブラートの特性を利用した実験を行いました。油性マジックで絵を書いたオブラートを水に浮かべると、絵を書いた部分のみが溶け残り、水面に残った絵を手や指に貼り付ける実験を楽しみました。また、家庭にある物を利用して水性ペンの色素をそれぞれの色に分離するクロマトグラフィーの実験では、黒や茶色といったペンの色が虹のような鮮やかな模様へ分離する様子を観察することが出来ました。さらに、水溶き片栗粉を用いたダイラタンシーの実験では、水溶き片栗粉を固く握って固まったかと思った瞬間、力を抜くと一瞬で液体に戻る不思議な現象を泥遊び(!?)を交えながら楽しみました。その他、工作実験としてテレビでもお馴染みの空気砲を作りました。今回作った空気砲はペットボトルと風船を材料に用いた家庭でも簡単にできる物ですが、その空気の威力は予想以上に強く、家族や友達さらには学生達と一緒に打ち合いを楽しむことが出来ました。

これらの実験は家庭でも簡単に行えるだけでなく、全ての実験に科学の不思議が含まれています。参加して頂いた保護者の方々や年齢の少し大きな子供達にはその不思議を楽しんでもらうことが出来ました。実際、“なぜこうなるのか?”といった質問を大人だけでなく、比較的小さな子供からも受けることができ、子供の科学に対する関心の高さに驚かされる一面もありました。一方、年齢の小さな子供達にとってこのような理屈は少々難しかったかもしれませんが、普段、家庭や幼稚園ではやらない遊びや現象を通じて、実験遊びを楽しんでもらうことが出来ました。今回の企画では参加者の年齢層が1歳から大人までと大変幅広く、参加者全員が安全に実験を楽しむことが出来るか不安一杯でスタートしましたが、子供から大人まで参加者全員がそれぞれの興味と関心で実験に取り組むことができ、子供達をはじめ保護者の方々と楽しい時間を過ごすことで、地域交流を深めるという本企画の最も大きな目標を達成することが出来ました。また、今回のイベントでは、本学教職員のご家族も複数参加して頂け、大学教員の枠を超えて地域の方々と交流を深めることが出来たのではないかと思います。今後、このような企画があれば、皆さんも気軽に参加してみてもいいでしょうか?

今回のこどもランド企画では、打ち合わせの段階から参加させて頂きましたが、学外施設との打ち合わせの場においても、学生が中心となって話を進める場面も多々見られ、本学の学生が社会人に向けて着実に成長している様子を伺う事ができました。このような成長は、長期実務実習等の学外での教育を

受ける機会が多い昨今の薬学教育において、本学学生が学外の施設においても立派に実習をこなし、さらには卒業後、社会に出ても即戦力として活躍できる人材に着実に成長している証の一つと言えるでしょう。今回の企画は初めての試みでしたが、以下のアンケート結果の抜粋にもありますように、地域の方々に大変な好評を得ることが出来ました。今後も本学学生にはこのような地域交流を深めることを目的とした企画に挑戦し、学内外の人達と協力してより良いものを創り上げるプロセスを通じて更なる成長をしてほしいと思います。最後に、本こどもランドに多大なご協力を頂きましたアヴェ・マリア幼稚園と寺西幼稚園の先生方にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

学生実習支援センター 助教 小関 稔

幼稚園の先生、保護者の方からのコメント

大学祭の貴重な時間の中で、地域の子供達のために、遊ばせていただける楽しいスペースを用意して下さい、特に、薬科大学らしい科学の実験的な要素のある遊びを考えて下さい、とても興味深かったです。

子供達が参加できる科学遊びはなかなかないので、科学好きの親や子供達が参加させて頂ける企画をよろしくお願い致します。

アヴェ・マリア幼稚園 園長 松永 昌子

以前より、子供に科学に興味を持って欲しいと思っておりましたが、幼児向けの科学を学べる場所がなかなかありませんでした。そんな時に、幼稚園より薬大祭の案内を貰いました。実験内容がとても面白そうなので、参加させて頂くことにしました。

子供達のお目当ての実験は空気砲です。到着した時には、魔法のペンの実験がしていたので、魔法のペン・空気砲と2つの実験をさせて頂きました。実験は両方共、家庭にあるような物で行われていましたが、子供達は、身近なものが変化する様子に興味津々でした。また、大人用に実験内容がよく分かるプリントが用意されており、それを読むことで、より深く理解することができました。子供達は、帰宅後、もう一度実験をして遊んでおりました。

子供ランドの中には、縁日のような遊びが沢山用意されており、子供も大人もとても楽しむことが出来ました。

また、このように子供達が科学を身近に接することのできる機会を今後も提供して頂ければと思います。本当にありがとうございました。

アヴェ・マリア幼稚園 保護者1

小4の娘はステージでダンスを踊らせていただき、憧れの薬大で踊れるということで、とても喜んでい

ました。年長児の娘が、まず興味をもったのはフェイスペインティングで、かわいらしくしてもらったことで、テンションがあがったようでした。

ちびっこランドでは、手作りのパズルや輪投げ等々、最初は恥ずかしがっていたものの、やはり興味ひかれるものばかりでしたので、次はこれ、次はこれと自分で選んで参加していました。特に魚釣りは工夫されていて、くじのような要素も含まれていましたので、もう一回したいという気持ちがわいたようでした。

学生の方々もとても優しく対応してくださったので、参加しやすかったです。どうもありがとうございました。

アヴェ・マリア幼稚園 保護者2

・門の所の案内が無く、立ち番をしている学生さんも案内するわけでもなく…先に行っていた友人に電話をして「そのまま、どんどん中に入っておいて」と教えてもらいました。門の所は、本当に静かだったので、門に案内があるとわかりやすいと思います。

・屋台の食べ物は発想がおもしろくて味もおいしかったです。

・フェイスペイントは無料でしたし、子供たちも初体験で凄く喜んでいました。

・椅子が沢山あったので、子連れの食事には大変助かりました。

・部外者を呼ぶイベントであるなら、トイレの案内がわかり易い所であればいいと思います。

・実験は、とても興味深く、子供も大喜びでした。

・ゲームもすごく喜んでいました。お菓子や消しゴムまで頂けて、申し訳ないくらいでした。室内の遊び場を準備して頂いて安全に子供が遊べたので、親としては、本当に助かりました。

・学生さんたちも手探りながら、優しく子供に接してくれました。ありがとうございました。

(まとめ)

学生さんのための学祭に私たちも呼んで頂き、すごく楽しませて頂き、ありがとうございました。初めて学内に入りましたが、施設もとてもきれいでした。図書館や学食も使えたら、もっと身近になるなあと思います。

アヴェ・マリア幼稚園 保護者3

〈アンケートの抜粋〉

今回のこどもランドでは、参加者の方々に学生課主催のアンケートを実施させて頂きました。以下にアンケートの一部を抜粋して記載させて頂いております。今後は、頂いた意見を参考に地域の方々と共に楽しめるイベントを企画していければと思います。

- ・ こういう交流があつて良かったし、もっといろんな事で交流できるといいと思いました。
- ・ 子供がとても楽しんでいました。実験も簡単にできるものなので子供が喜んでいました。
- ・ 空気砲に子供が大喜びでした。
- ・ 子供に理解できるように何を指すための学校であるかなどを表に出してほしい。
- ・ 来年4月から小学生になる息子に理科に興味を持ってもらえた気がしました。
- ・ 薬のことなど、簡単な講座（子供と共に聞ける話）があればよいなと思います。今日の実験はとても楽しかったです。
- ・ 薬ってどんな役目？ など小・中向けの話がきけたらいいです。
- ・ 実験教室が人気です。学校で教えてくれない科学について教室があるといいです。
- ・ 初めて来たのですが、子供も参加できることを知っておどろきました。また来年も来たいと思います。
- ・ 薬大というと「かたくなるしい、難しい、近よりがたい」というイメージがありましたが、楽しい実験などで、親子ともども楽しめました。
- ・ いろいろなサークル活動が、園に来て子供に見せていただきたいです。
- ・ 子供に科学への興味を持たせたいので、今後もこうした企画を増やしてもらいたいです。
- ・ 今の子どもたちは外で自由にいろいろやってみて発見する喜びや機会がないので、草木や簡単な実験に接する機会を地域交流として与えていただければうれしいです。
- ・ 小学生を連れてきました。大学に遊びにこれるといいのが良かったです。幼稚園児は大学に来ているという意識はないようですが、楽しんでいました。
- ・ お姉さん、お兄さんに遊んでもらったのがうれしかったみたいです。
- ・ こういった企画があると大学内に来やすいので、ぜひ、また開いてほしいです。
- ・ 今回のような科学的なことを知らずに子供が修得できるような企画は面白いと思います。
- ・ 今回の実験は、子供が待てる短時間で興味あるものでも良かった。またやってほしい。
- ・ 実験する事がはじめてだったので楽しめました。このような企画をぜひ今後もお願いします。



オブラート実験 説明風景



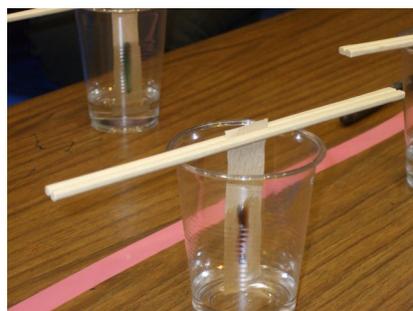
オブラートを水に浮かべた様子



キレイに手に貼れたよ



どんな色が出てくるのかな



色が分かれてきたの分かった～？



空気砲で遊ぶ子供達



スタッフに向けて空気砲をバーン



お父さんそっちのけで空気砲に



ダイラタンシーで泥遊び!?



強く握ると固い水溶性片栗粉だけど...



力を緩めた途端、どろどろに

異文化体験 フライブルク大学「日本人学生のためのサマープログラム」

フライブルク大学国際局が主催する「日本人のためのサマープログラム—ドイツ語とドイツ文化」が今年度も8月6日から28日までの約3週間開講された。本学の学生5名が初めて受講した2000年以来12回目を数え、今年度は20名の2年次生が参加した。今回は日本全国各地から昨年を上回る申し込みがあったそうで、キャンセルが出なかったこともあり定員通りの参加者数になった。

フライブルク大学国際局では、毎年20名以上の参加者を送り出している本学のために特別プログラムを用意していただいているが、今年度はフライブルク大学薬学部でミニ講義、研究室見学が同大薬学部の協力のもと行われた。海外の大学の本部と学部が特定の大学の短期留学者のために便宜を図るようなことは普通では考えられないが、これも長年の実績によるものである。フライブルク大学のサポート体制も万全で、大学構内には日本人・ドイツ人スタッフが常駐する参加者専用の控室が用意されている。問題が発生した場合は昼夜を問わずスタッフが対応する即応体制が整えられており、海外渡航未経験者でも安心して参加できる様々な心遣いがなされている。

今回のサマープログラムに参加した2年次生の代表に「異文化体験」というテーマでドイツでの体験や思い出を投稿してもらった。これを読んでサマープログラムに興味を持った人は是非とも次の夏休みにチャレンジしてほしい。2013年度から一定の条件を満たした参加者には海外語学研修の単位が認定されることになっている。教室での授業は午前中で終了、午後には連日楽しいレクリエーションプログラムが用意されている。また週末には州内の都市、フランスやスイスへの日帰りバス旅行(料金は受講料に込み)が予定されている。それにオプションとしてビールの町ミュンヘンとノイシュヴァンシュタイン城への遠足も予定されている。200名を超す先輩たちが熱い異文化体験をしたフライブルクの町が皆さんの来訪を待っています。

ドイツ語担当准教授・日本フライブルク・アルムニ会会員 桑形 広司

Reise nach Deutschland.

2年次生 今吉 菜月

「どうしよう！」そんな一言から始まった、フライブルクへの旅でした。海外なんて初めて。不安いっぱい、でもワクワク。私にとって新たな挑戦でした。

フランクフルト空港に到着。一気にドイツ語の世界へ。英語が苦手な私。でもドイツ語はペラペラ…そんなことはありません。入国審査では、にこやかなお兄さんに英語で喋りかけられ、単語で会話。素敵なお兄さんは「頑張ってるね！」と応援して下さいました。

フライブルク大学での授業は、学力別に分かれた10人ほどのクラスでみっちり授業。そんな私は、Cクラス。なんと、上から3つ目！もちろん、先生は日本語が喋れませんし、全てドイツ語、たまに英語。最初の頃は、分からないことばかりで大変でした。まず聞き取り、意味が分かること。次に、話せること。ということで、メインは会話中心。もちろん、文法的なこともテキストを使いながら学びました。最初は全く成り立たなかった会話。しかし、徐々に会話ができるようになりました。相手の話が理解出来ても、いざ自分が話すとなると上手く話せない。

そんな葛藤もありました。でも、先生やクラスメイトは素敵な人たちばかり！みんなで市場に出かけて買い物をしたり、フルーツサラダを作って食べたり。なんと、誕生日には先生のお宅に招いて頂き、クラスみんなから祝ってもらいました！滅多に経験することの出来ない、記念すべき誕生日となりました。

ドイツでの生活はとても刺激的でした。真っ昼間から、ビール瓶片手に歩いているお兄さん。アイス片手に街を歩く人々。食事の量の多さ…。甘党な私は、色んなアイスやケーキ(有名なのは黒い森のチェリーケーキ)をいっぱい食べました。ドイツと言えばビールやソーセージを思い浮かべるだけあって、とても美味しかったです。

寮では、何カ国語も話せるイタリア人の女の子、背が高く優しいドイツ人の男の子、お茶目な中国人の男の子、笑顔が素敵なおロシア人の女の子と一緒に生活をしました。たどたどしい英語やドイツ語しか喋れない私を、温かく迎えてくれ、色々助けてもらいました。一緒に片付けや掃除をしたり、ちょっとお菓子を食べたり。伝えたいこと全てを伝えることは出来なかったことが悔しいですが、とても楽しく過ごすことが出来ました。

初めての海外。全ては、このプログラムを紹介して下さった桑形先生をはじめ、フライブルクでの生

活のサポート、数多くのレクレーションを企画して下さったスタッフの方々、クラスの先生や仲間たち、寮のみんな、友達や家族に本当に感謝しています。Vielen Dank!



ミュンスターから



歓迎パーティーにて



先生宅にて

ドイツ留学を終えて

2年次生 荒木 悠

私は、この夏の8月にドイツのフライブルクに桑形先生の紹介で短期留学をさせていただきました。実は自分はこの京都薬科大学に入学した時から今回の6年のうちに一度は短期留学をしようと考えていたのでこのプログラムの存在を知った時から、絶対に行こうと心に決めていました。

とはいっても心にそう決めたものの自分にとってこれが初めて長期での海外滞在にもなるとあり、留学が決まってからは今まで好きだった語学により一層力をいれて勉強したりしたものの正直最初は不安がありました。しかし実際向こうでの授業は先生がほとんどドイツ語のみでしたが分からないことがあればこちらが拙いドイツ語で質問してもわかるまで

説明してくれたり、向こうでできた日本や違う国の留学生の友達とそういうことを通じて仲良くなれたりしました。

ドイツでは様々な忘れられない経験をさせてもらいましたが、その中でも私がもっとも思い出深いのはサマーコースの授業が全て終わった後に個人的に行った一人でドイツぶらり旅をした時のことです。以前から剣道の先生にハイデルベルクは良い町だから時間があれば行ってみなさいと言われていたので、自分がドイツで身につけた語学の力がどれくらい実践できるか試してみたいとも思っていたので計画をたてて行ったのですが朝からトラブルが起きそうになったときに留学期間に偶然親切にした人に出会い事情を説明すると助けてもらえたり、DB(ドイツ鉄道)に乗っていると日本びいきのドイツ人家族に声をかけられ楽しい電車の時間を過ごせたりできました。またハイデルベルクの街並みも初めて見るドイツの古城は美しかったです。また薬学発祥の地であるドイツで個人的にですが薬事博物館にいたりスイスのバーゼルのノバルティスにも見学に行ったり、今年はフライブルク大学のご厚意でドイツの薬学部の研究施設と薬学部の制度を説明していただき、薬学部の学生としては非常に良かったかと思えます。

私が今回の留学で感じたのはドイツのお国柄もそうですが、国は違えど人と人とのコミュニケーションに必要なのは真摯な態度で自分の伝えたいことをしっかり伝えるという日本では当たり前に行っていたことを再確認し人との繋がり的重要性を再認識できたことです。また実際最後にはルームメイトと簡単なドイツ語ですが世間話をしたり、逆にこっちが日本語を教えたりすることもあったのですが、その時に改めて自分の国のことはしっかりと説明できるようになりたいと感じました。実際日本に帰ってから向こうでできたドイツ人の知人とも会うことができるのですがその度自分の勉強不足を感じてしまいます。またいつかドイツに行く際には今回の経験をもとによりドイツの事を知れるようになりたいと思います。この夏は協力してくれた皆様のおかげで忘れられない一生の宝物になりそうです。



薬学研究施設見学 集合写真



エメンディガーにてワインフェス

サマープログラムに参加して 2年次生 安 瑛葉

この夏、私はドイツのフライブルクという街で過ごしました。平日の午前中は授業を受け、午後にはスタッフの方々が準備して下さったレクリエーションを楽しみました。レクリエーションでは教会に行ったり、バーベキューをしたり、フライブルクの自然に触れることもできました。また週末旅行というものにも参加しました。スイスではラインの滝を見て、フランスのストラスブールではノートルダム大聖堂に登り、ミュンヘンではニュンフェンベルク城やノイシュバンシュタイン城を観光することができました。

普段は朝9時から12時半まで間に30分の休憩を挟み2コマ、ほとんどがドイツ語で授業は行われ、生活で使う会話を中心に「とにかく声に出す!」を motto にペアを組んで会話の練習をしたりゲーム形式で楽しく学んだり、時には街へ出て現地の人々との交流を通して学びもしました。ドイツに着いた当初は何もかもわからず身振り手振りで行っていた会話も、1週間、2週間と経つうちに少しずつではありますが会話をできるようになり、とても楽しく嬉しい毎日を過ごしました。

この期間、何よりも楽しくて思い出として残ったのは、クラスメートと過ごした時間でした。

ある日の午後、シュニッツェルヤクトというウォークラリーに参加しました。クラス対抗のウォークラリーで、フライブルクの街を歩きながらウォークラリーを楽しみつつ、途中で寄り道をしてアイスクリームを食べたりソーセージを食べたり…。そこから生まれる何気ない会話はとても楽しく、クラスメートの新たな一面も見ることができて日を重ねるごとにさらに仲良くなり、最後には日本に帰ることがとても惜しくなりました。

ドイツでの生活も残すところあと2日になり、クラスでパーティーをすることになりました。パスタや

ハンバーグなどを自分たちで作って、美味しい料理とドイツビールを楽しみながら1ヶ月間にあった出来事や思い出を朝まで話しました。またそこでは、日本に帰ったあとも連絡を取り合ってたまには旅行にも行けるといいなと話もしました。短い期間ではありましたが、毎日のように顔を合わせるうちに親しくなり打ち解けて、日本に帰って2ヶ月以上経った今でも連絡を取るほど、とても良い関係を築くことができました。ドイツでの生活は勉強も観光も食事もどれもとても楽しかったのですが、やはり新たな人、クラスメートであったりドイツ人スタッフの方々との繋がりをもてたという点で、今回のサマープログラムに参加して本当によかったと思います。



ホッホ城にて

ドイツでの観光の思い出 2年次生 大堀 健史

ドイツでの思い出は1ヶ月という短い期間でしたが、たくさんあります。まず、一番楽しかった思い出は、8月15日にフランクフルトで開かれたサッカードイツ代表対アルゼンチン代表の親善試合をスタジアムで観戦したことです。

ドイツのスポーツといえばサッカーということで、本場の雰囲気味わってみたいと思い友達と個人的に行ってきました。僕はドイツ代表を応援していたのですが、キーパーがレッドカードで一発退場になってしまった影響もあり、残念ながらアルゼンチンが3-1で勝ちました。この試合は親善試合ということもあり、現在のドイツ代表の中心選手であるラームやポドルスキは各選手の事情により召集されていませんでした。しかし、クローゼやエジル、メッシ、アグエロなどトップレベルの選手たちを間近で見ることができました。また、もう引退した選手ですが、ドイツのオリバー・カーンが解説者として来ていました。試合会場の雰囲気もすごくよく、90分間があつという間でした。貴重な体験ができ、とても楽しかったです。



オリバー・カーン



ドイツvsアルゼンチン試合風景



ミュンヘン新市庁舎



ノイシュバンシュタイン城

次に印象に残っているのはミュンヘンとノイシュバンシュタイン城に旅行に行ったことです。この旅行は個人的にではなく、サマープログラムの週末旅行に申し込んで行きました。ミュンヘンではさまざまな観光名所に行ってきました。ブンデスリーガのバイエルン・ミュンヘンのファンショップや新市庁舎、BMW博物館、ニュンフェンベルク城などを見ました。新市庁舎の時計は仕掛け時計になっており、11時と12時に人形が踊ってくれました。この仕掛け時計を見るために、新市庁舎前のマリエン広場は時間が迫ってくると観光客でいっぱいになっていました。BMW博物館はBMW本社の近くにあり、車だけでなく、二輪車や飛行機のエンジンなどもあり、とても多くの展示物がありました。ニュンフェンベルク城はニュンフェンベルク宮殿ともいい、城というよりは本当に貴族が住むような宮殿という印象を受けました。ここはミュンヘン中心部から少し離れており、広大な庭園内を散歩やランニングしている人もいました。宮殿はバロック様式の建物で、現在もヴィッテルスバッハ家の当主の老人が1人で住んでおり、その居住スペース以外が観光客に公開されているそうです。

ミュンヘンと同じバイエルン州にあるノイシュバンシュタイン城はディズニーランドの眠れる森の美女の城のモデルの一つとしても知られており、とてもきれいな城でした。個人的に行くのが難しい観光地だと聞いていたのでサマープログラムにこのツアーがあっただけよかったと思いました。観光や旅行のことばかり書きましたが、ドイツ語でドイツ人に道を尋ねたり、買い物のときにドイツ語を話したりして、一般のドイツ人と話すことができ、楽しみながらよい経験ができました。

ドイツの思い出

2年次生 岡崎 静乃

大学に入って初めて勉強するドイツ語、基礎演習で選択していた「ドイツ文化ゼミ」を通してドイツについて知っていくにつれてドイツにすごく興味を湧いてきました。そんな時このサマープログラムを知ってドイツに行ってみたく思うようになりました。

このドイツ留学は私にとって初めての海外でした。生活面でも言葉の面でも不安がありましたがドイツの寮に到着するとルームメイトが話しかけてくれて、分からないことは何でも聞いてと言ってくれる優しいルームメイトで緊張がほぐれました。

フライブルク大学でのドイツ語の授業は、はじめの頃は先生の言っていることが全く分からなくて3週間も授業を受けられるのかと不安にもなりましたが、日を重ねるにつれてだんだん先生の言っていることも分かってくるようになってくると授業がとても楽しくなってきました。授業は教室で行われるだけでなく、実際に市場やお店に行き、教室で習ったドイツ語を使って買い物をしたり、お昼ご飯を注文したりする授業もありました。そのおかげで学校が終わってから自分たちだけで買い物をしたりするときも積極的にドイツ語を使って生活できました。なか

なか伝わらなくて、どう言ったら伝わるのかと苦労するときもありましたが、やっぱり自分の伝えたいことを相手に伝えることができると、とてもうれしくて、もっとドイツ語を使って話をしたいと思えるようになりました。ルームメイトと話せることもだんだん増えてきて会うのが楽しみになりました。ドイツでは周りの人がとても親切で何かしてもらったたびに”Danke. (ありがとう)”と言いました。ドイツの生活にも慣れてきた頃、お店で買い物をしていると、おじさんに「子どものプレゼントにするにはどっちがいいと思う？」と聞かれることがあって、それに片言のドイツ語で答えると私に“Danke”と言ってくれたことがありました。ほんの少しの会話でしたがドイツ語で会話できてありがとうといわれたことと、ドイツに来て人の役に立ててすごくうれしかったことを今でも鮮明に覚えています。

ほかにもいろんなところに行ったり、ドイツの料理を食べたり、とても刺激的で楽しい毎日を送ることができました。この夏貴重な体験ができたことを感謝しこれからの生活に生かしていきたいと思います。



チューリッヒにて



ボーデン湖にて

Vielen Dank!!!!

2年次生 安達 未稀

2012年8月!ドイツの旅!!!

私がこのドイツ留学プログラムに参加した理由は、広い視野を持った人になりたい!そんな気持ちか

らでした。1ヶ月間という短い期間の中で、私を感じたドイツの生活について少しお話ししたいと思います。

初めての海外留学ということもあり、すごく不安な気持ちを抱えてドイツ入りしました。寮についたのは真夜中0時。ルームメイトの存在気配は皆無。これから1か月こんな不安な状態で過ごすのか、もう帰りたいと1日目で日本シック…ですが、そんな不安は一瞬で吹き飛びました。次の日ルームメイトと会うと「Hello!」と今までも友達だったかのように話しかけてくれました。ドイツの人は本当に優しく、街角で会った知らない人にも目が合うと「Hi!」と挨拶されたり、困っていると親身になって助けられたりと人の優しさはこんなにも温かいものなのかと初めて感じ、感動でした。

大学の授業では、ドイツ語のみの授業でしたが先生もジェスチャーなどでわかりやすく教えてくれました。日常会話などを中心に勉強したので授業にも身が入りました。一番印象に残っているのは、授業中にアイスの買い方を教えてもらい、実際にアイスを買に行くという課外授業をしたことです。授業で習った表現が実際に通じたときはすごく嬉しかったし、ドイツの人と会話できたときは本当に感動でした!!!!言葉は違ってもお互いに理解しようとすれば伝わるということを体験できました。

この留学を通して、人の優しさや、気持ちは伝わるということを実に深く体験することができました。ドイツ留学は自分にとって勉強になることがたくさんつまっていました。今までの自分よりも大きく視野が広がった気がします。そして学んだことをこれからの人生に生かしていきたいと思います。ドイツスタッフのみなさん、他大学の友達、私のドイツ留学で出会ったすべての人にありがとうという気持ちでいっぱいです。幸せな時間を過ごせました。ありがとう!!!! Vielen Dank!!!!



フライブルク大学前にて

(注) ドイツでは18歳以上の飲酒は合法です

第98回薬剤師国家試験

第98回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験期日 2013（平成25）年3月2日（土）・3月3日（日）

試験地 北海道 宮城県 東京都 石川県 愛知県 大阪府 広島県 徳島県 福岡県

試験科目 [必須問題試験]

物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務

[一般問題試験]

・薬学理論問題試験

物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理

・薬学実践問題試験

物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務

合格発表 2013(平成25)年3月29日（金）午後2時

「卒業生からのメッセージ」

100%自分のために



一色 瑞季

2012年 学部卒業
 (微生物・感染制御学分野)
 武田薬品工業株式会社
 医薬開発本部
 日本開発センター
 臨床開発部 勤務

みなさんは将来どんな仕事に就きたいか、何がやりたいのか具体的なビジョンはありますか？

私は今年の3月に本学を卒業したばかりで、就職活動もつい最近のことのように感じていますし、みなさんと近い視点から「仕事」についてお話しできればと思います。

さて在学中に自分がどんなビジョンを持って、学生生活を送っていたかというところ、正直なところ2年次生あたりまで何も考えていませんでした。しかし、2年次生の後期試験が終わった後にアメリカへの短期留学を決めました。理由は単純で「今しかない！」と思ったからです。アメリカでは案の定色んな人に出会い、生き生きとしたビジョンを持った人、積極的に人に伝えようとする人などに刺激を受けました。その際、夢やビジョンが具体的であればあるほど、人は努力できるし生き生き楽しめる、そしてそれを積極的に人に伝えられるのではないかと思います。

した。仕事についてもその観点から選択していて、自分がその職種でどんなビジョンを掲げて、自分を活かし、周りに対して力を発揮できるかを妄想して、就職活動の原動力としていました。私のビジョンとして「より多くの人々の考えに触れて、自分の器を大きくしながら新しいものをつくりたい」という思いがあったので、いろんな職種と多く関わりながら新薬を開発する臨床開発という仕事を選びました。

私は現在、武田薬品臨床開発部でモニターとして勤務し、モニタリング部門で種々の医薬品の開発に携わっていて、実際に医療機関へ出向き症例報告書（治験薬を投与された患者さんのデータを記載した報告書）を入手する業務（モニタリング業務）を担当しております。実際にこの仕事をしてみて、色んな人に出会い、その中で色んなお願いをするので、相手のことを考えた行動を求められることの難しさを感じます。正直、学生時代には自分がビジョン通りにどう行動するかばかり考え、どんなアクションをすれば相手がスムーズに対応できるだろうかという気遣いまではしていなかったもので、その点のギャップが今の一番の課題です。ビジョンとギャップをどのように埋めていくかが重要だと感じている今日この頃です。しかし、私個人の意見としては学生時代にしか許されないもので、100%自分のためのビジョンを描いて、100%自分のために努力をすることをオススメします！ぜひ1日も早く自分のなりたい姿を描いて、そのためにできることを学生の間の時間を使い切るくらいにやりつくしてください。

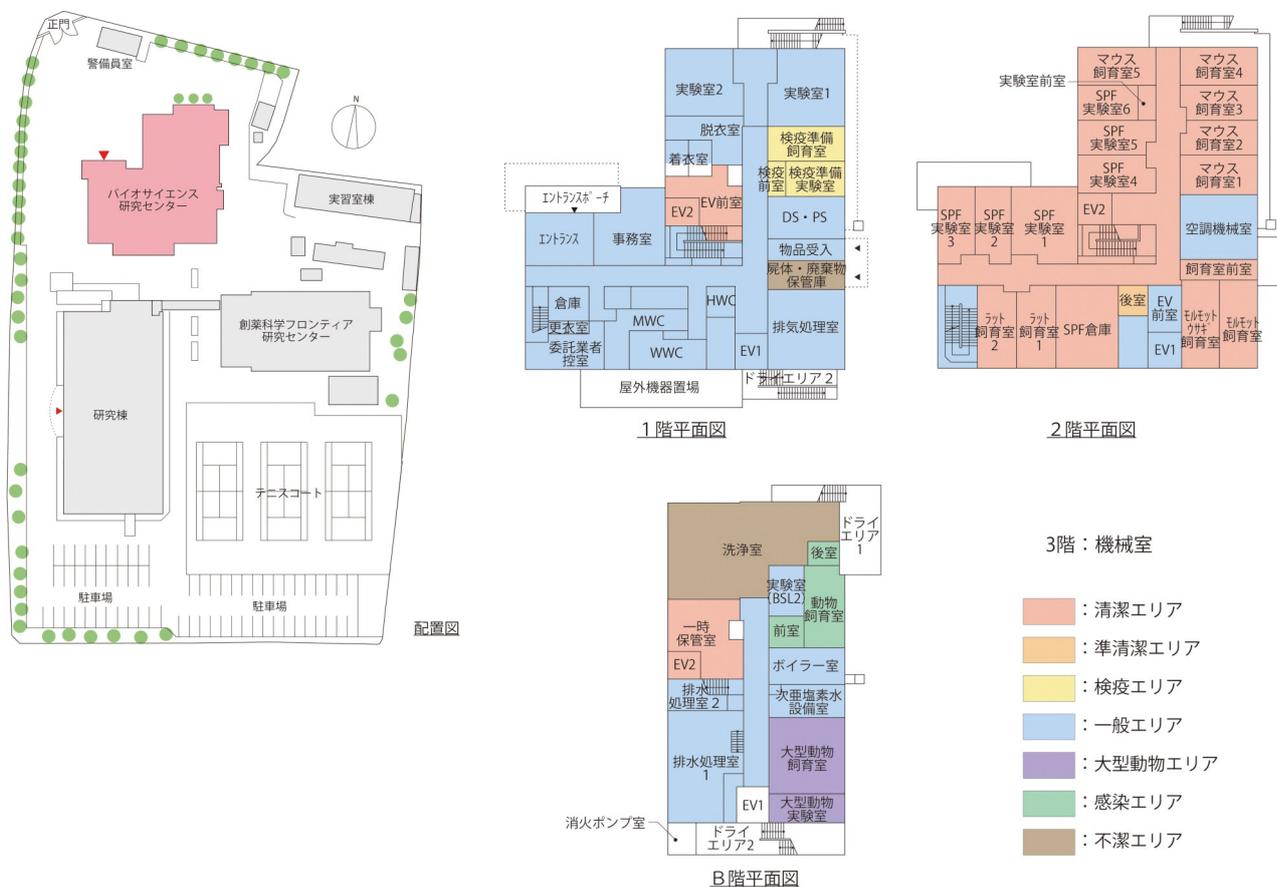
バイオサイエンス研究センター 現場（上棟）報告

本校地にある現動物研究センターの機能を南校地に新しく移す「バイオサイエンス研究センター」が、来年の6月に完成する予定です。「バイオサイエンス研究センター」は、国内の薬系大学における動物実験研究機関として、規模・設備・内容共に最高水準を目指しており、SPF*実験・飼育ゾーンを1つのフロア（2階）にまとめた、高機能・高品質な研究施設として建設中です。

「バイオサイエンス研究センター」完成後には施設周辺の外構整備等も予定されており、プロジェクト完了後には南校地全体が、アメニティ豊かなキャンパスとして生まれ変わります。



バイオサイエンス研究センター完成予想図



昨年11月からの南校舎解体工事開始から約1年が経過しました。皆様には通行や騒音等で、ご不便・ご迷惑をお掛けしておりますが、ご協力のおかげで「バイオサイエンス研究センター」の建設工事は順調に進んでおります。

10月末現在の進捗率は、45%で最上階までの躯体工事が完了（上棟）いたしました。今後、外装タイル張り工事や内装仕上げ工事を進めて行き2013年3月末をめどに建築主体工事が完了、その後実験機器の据付及び外構工事を行い、2013年6月末の竣工に向けて工事を進めております。今後とも安全作業に徹し事故・災害を発生させない様に努めて参りますのでご協力宜しくお願いいたします。

※SPF：specific pathogen free / 特定病原微生物を持たない状態



《掘削》2012年3月



《地下1階》2012年6月



《1階》2012年7月



《2階》2012年8月



《3階》2012年9月



《屋上》2012年11月

建築概要

建築面積：781.19㎡

延床面積：2,503.89㎡

規模・構造：地下1階地上3階・鉄筋コンクリート造

南校舎解体撤去工事：2011年11月～2012年3月

バイオサイエンス研究センター新築工事：2012年3月～2013年6月

設計・監理：株式会社 東畑建築事務所

施工：株式会社 大林組

2012年度後期試験日程

教務課

シラバスにも一部掲載されているように、2012年度後期の試験日程は別表のとおりです。

再試験受験手続が遅れる学生が、例年見受けられます。日程等（再試験手続の詳細は後日掲示で連絡します）よく確認しておいてください。

「再試験受験許可書・領収書」については、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験時まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行をしますので申し出てください。

《後期試験等日程表》

年次	試 験	試験期間	合格発表	受験手続日
6	薬学特別演習 本試験	1月 8日(火) 1月 9日(水)	1月21日(月)17:00～ 1月27日(日)24:00 Webによる公開	—
	薬学特別演習 再試験	2月 4日(月) 2月 5日(火)	卒業査定会[2/19(火)]後 成績通知書を配付	1/22(火)・1/23(水)
4	後期試験	1月10日(木)～ 1月17日(木)	1月28日(月)17:00～ 2月 4日(月)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月 4日(月)～ 2月 7日(木)	2月15日(金)17:00～ 2月22日(金)24:00 Webによる公開	1/29(火)・1/30(水)
	前・後期再試験Ⅱ	2月22日(金)～ 3月 1日(金)	進級査定会[3/21(木)]後 成績通知書を配付	2/18(月)・2/19(火) (後期科目のみ)
	OSCE本試験	12月15日(土) 12月16日(日)	別途告知	—
	OSCE追・再試験	3月 7日(木)	進級査定会[3/21(木)]後 成績通知書を配付	別途告知
	CBT本試験	1月23日(水) 1月24日(木)	別途告知	—
	CBT追・再試験	3月 4日(月)	進級査定会[3/21(木)]後 成績通知書を配付	別途告知
1～3	後期試験	1月21日(月)～ 1月29日(火)	2月12日(火)17:00～ 2月22日(金)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月22日(金)～ 3月 1日(金)	進級査定会[3/21(木)]後 成績通知書を配付	2/13(水)・2/14(木)



図 書 館

開 館 日 程

2013年 1月

2013年 2月

2013年 3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

■ 休館 □ 9:00-20:00

■ 9:00-17:00

■ 10:00-17:00

■ 休館=館内整備

教育後援会からのお知らせ

2012年度の教育後援会総会が、10月5日（金）13時30分よりA31講義室に於いて開催され、72名のご父母にご参加いただきました。

福田会長、武田理事長の挨拶があり、乾学長から大学の近況等について説明が行われました。

その後議事に移り、2011年度の決算報告に続き2012年度事業計画ならびに予算（2012年10月1日～2013年9月30日）が下記のとおり承認されました。また、和田会計監査の退任および2年次生父母幹事中山様の会計監査就任、3年次生父母幹事奥村様の副会長就任についても併せて承認されました。

その後、進路支援部長の安井教授から「学生への進路支援」について説明が行われ、最後に長澤副会長より閉会の挨拶があり終了しました。

（単位：円）

項 目	予 算 額	使 途
学生生活支援事業	1,440,000	学生教育研究災害傷害保険料補助（6年間分）
	200,000	保険適用外初診料補助（上記保険適用外の初回治療費を補助）
	1,000,000	学生補助金（学生自治会の意見を聴取、要望に対して柔軟に補助）
	150,000	弔慰金（学生及びそのご父母に対して支給）
	1,500,000	学部生課外講座受講料補助（学部生を対象に、学内で開講する英語課外講座等の受講料の一部、1人当たり15千円を限度に補助）
	200,000	一般図書の寄贈（専門図書を除く）
	500,000	卒業祝賀会への協賛（京薬会主催）
	952,000	卒業記念品の贈呈
小 計	5,942,000	
父母対象事業	300,000	会合費・事務費・郵送料
	1,500,000	K P Uニュース郵送料
小 計	1,800,000	
教育研究支援事業	340,000	C B T模擬試験料（2012年度4年次生に対する継続事業）
	2,100,000	「治療薬マニュアル」 2013年度の4年次生用 参考書代
	246,560	国家試験対策模擬試験 解説講義料
	608,400	インターネットを利用した自己学習支援システム
小計	3,294,960	
予備費	350,000	
支出合計	11,386,960	

第3回KPUシンポジウム報告書

厳しい残暑が続く2012年9月13日（木）に本学躬行館T31講義室において第3回KPUシンポジウムを開催いたしました。特別講演の演者として、神経科学領域において第一線でご活躍されている東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学教室の池谷裕二准教授をお招きして、「メゾスコピックな視点から眺めた脳」という演題でご講演頂きました。また、一般講演として、東京大学大学院薬学系研究科ERATO金井触媒分子生命プロジェクト医薬機能グループで現在ご活躍中の、本学薬品化学分野前助教の相馬洋平グループリーダー、本学薬品物理学分野の土谷博之講師、同薬理学分野の大矢進教授、同病態生理学分野の芦原英司教授および同臨床薬学教育研究センターの矢野義孝教授の5名の先生方による研究紹介を行って頂き

ました。まだ後期の授業が始まっていない時期にもかかわらず、計259名（1～2年次生：2名、3～6年次生：203名、大学院博士前期課程学生：2名、大学院博士後期課程学生：11名、社会人：1名、教育職員：40名）もの方々に参加していただき盛況に会を終えることが出来ました。シンポジウム終了後は、恒例となっている交流会を開催し、特別講演演者の池谷先生や一般講演演者の先生方、さらには乾学長を囲んで多くの学部学生が質問している姿が見られ、18時半まで賑わっておりました。最後に、今回も多くの先生方から多大なご協力を頂きましたことを深謝致しますとともに、今後とも引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

KPUシンポジウム実行委員会一同

第3回KPUシンポジウム概要

日時：2012年9月13日（木） 13:30～17:00

場所：京都薬科大学躬行館 T31講義室

開会の挨拶 乾 賢一 学長

特別講演（1）13時40分～14時30分 座長：長澤 一樹 教授

「メゾスコピックな視点から眺めた脳」

東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学教室 池谷 裕二 准教授

一般講演（1）14時40分～15時05分 座長：中村 誠宏 助教

「エステルを含むペプチドを利用した生物有機化学研究」

東京大学大学院薬学系研究科ERATO金井触媒分子生命プロジェクト医薬機能グループ

相馬 洋平グループリーダー

一般講演（2）15時05分～15時30分 座長：石原 慶一 講師

「非アルコール性脂肪性肝疾患とレチノイド」

土谷 博之 講師（薬品物理化学分野）

一般講演（3）15時30分～15時55分 座長：北村 佳久 准教授

「イオンチャネル創薬-カリウムチャネル研究を中心に-」

大矢 進 教授（薬理学分野）

一般講演（4）16時10分～16時35分 座長：中田 徹男 教授

「Wnt/ β -catenin 経路を標的としたがん治療開発」

芦原 英司 教授（病態生理学分野）

一般講演（5）16時35分～17時00分 座長：安井 裕之 教授

「薬物動態／薬効／副作用を評価・予測するためのファーマコメト릭ス」

矢野 義孝 教授（臨床薬学教育研究センター）

閉会の挨拶 加藤 伸一 准教授

茶話会 17時～18時30分



2012年11月のオープンキャンパス開催

入試課

2012年11月4日（日）に秋のオープンキャンパスを開催しました。天候にも恵まれ、同日は京葉祭の模擬店出店等もあり、426名（前年比176.8% 185名増加の内訳は、高1：22名、高2：17名、高3：9名、その他：15名、付添者：122名）という非常に多くの参加者がありました。2005年秋のオープンキャンパス開始以降最も多い参加人数となりました。

躬行館T31講義室での「学長挨拶」、「大学紹介（入試広報委員長）」、「在学生の話」、「卒業生の話」、「見学施設の概要説明」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「在学生の話」では、6年次生の本田哲郎さんに本学の志望理由、分野での研究やクラブ活動、病院・薬局実習などのご自身の体験をお話していただきました。

「卒業生の話」では、大正製薬株式会社に勤務されている内海 達様をお招きして、本学の魅力や本学に在籍し経験したことのメリット、企業での仕事などをわかりやすくお話いただきました。「在学生の話」、「卒業生の話」とともに参加者にはたいへん好評でした。

「施設見学」では、臨床薬学教育研究センター、躬行館6分野の研究室及び図書館の見学を行い好評でした。

「相談会」は、本学の職員と在学生が相談員となり、133名（前年比137.1%）の相談者がありました。相談内容は、入学試験や進路、奨学金、学生生活などで、受験生、付添者ともにとっても熱心に質問、相談される姿が印象的でした。

今後とも、参加者の方に本学の素晴らしい教育・

研究環境を知って戴くためにオープンキャンパスをより一層充実していきます。



学長挨拶



施設見学



相談会

第29回日本医学会総会2015関西

「医療チーム学生フォーラム」

医学部 関西12大学、京都薬科大学、神戸薬科大学、京都大学医学部人間健康科学科看護学、大阪大学医学部保健学科看護学の代表者が集い、若い世代のパワーと独自性や発想力によって、医学会や医療現場のブレイクスルーを期待する「医療チーム学生フォーラム」（「第29回日本医学会総会2015関西」のイベント）が企画されました。毎年フォーラムと合宿を重ね、2015年関西で独自のシンポジウムを開催し若い世代から提言を提案します。薬学部メンバーとして神戸薬科大学から3名、本学から3名（3年次生岩貞有紀さん・2年次生浅野瑛さん・1年次生吉留利香さん）が参加しています。これまでの活動状況をご紹介します。

〔実行委員を激励・10月1日〕

乾学長、後藤副学長、北出学生部長、高山臨床薬学教育研究センター長と実行委員の懇談会を開催。各先生方から、薬学部代表としてディスカッションし、相手の話を聴き、多職種にわたり仲間を作り、ブレイクスルーを期待しているとエールが送られました。



実行委員の皆さんと学内懇談会の後記念撮影

〔他大学の実行委員とWEBミーティング・11月1日〕

大学の授業・実習の空き時間を利用して、他大学の実行委員とWEBミーティングを行い、情報を交換しています。



WEBミーティングの様子

〔第1回「医療チーム学生フォーラムキックオフ」・11月11日〕

第1部：パネルディスカッション「学生さんに伝えたい医学と医療の今」

パネラー及びコメンテーター（乾賢一学長がコメンテーターの一人でした）の先生から実行委員の学生へプレゼンテーション及び激励がありました。

第2部：明日の医学と医療カフェ「これからの医学と医療の話をしよう」

ワールド・カフェ方式※で約50名の学生がグループに分かれて、自分の意見を述べ、他の人の話を聴き、模造紙にそれぞれの意見を書き込みながら、意見の集約・発表を行いました。



ワールド・カフェ方式での意見交換の様子



グループ発表の様子

参加者全員で集合写真

※ワールド・カフェ：カフェのような雰囲気の中で話し合う手法。グループのメンバーの組み合わせを変えながら進めるため、参加者全員で話し合っているような効果が得られます。

～実行委員からのメッセージ～

3年次生 岩貞 有紀さん

キックオフを通して学生が主体となりこれからの医療について考えるということの重要性を再認識しました。私達実行委員が積極的に活動し、その素晴らしさを皆さんにも還元していきたいと思います。

2年次生 浅野 瑛さん

キックオフミーティングでは自分から積極的に発言していくことの大切さや、医学生や看護学生の通常聞くことのない意見が聞け非常に勉強になりました。また私はこのフォーラムの仲間との交流を通してチーム医療について考え医学会総会で発表していきたいと思います。

1年次生 吉留 利香さん

将来必ず関わることになる医学部、看護学科の方とこれからのチーム医療を中心に様々な議論を出来ることがとても楽しみです。私達の活動をきっかけにたくさんの学生の方に将来の医療について興味を持って頂けたらと思います。

クラブだより

卓球部

私たち卓球部は新1年次生を8人迎え、計18人で大会に向けて日々練習に励んでいます。

<昨年度活動実績>

西日本医歯薬 女子 シングルス：ベスト8

全日本医歯薬 女子 団体：6位

シングルス：ベスト8

春の三薬 男子 団体：1位

シングルス：1位、2位

ダブルス：1位

女子 団体：1位

シングルス：1位、2位

ダブルス：1位

春の四薬 男子 団体：3位

シングルス：ベスト4

ダブルス：ベスト8

女子 団体：3位

シングルス：1位、ベスト8

ダブルス：1位

全国薬学生大会 女子 シングルス：ベスト8

関西薬学生大会 男子 団体：3位

シングルス：ベスト8、

ベスト16

女子 シングルス：ベスト4、

ベスト8

ダブルス：2位

<今後の予定>

3月 西日本医歯薬

5月 春の三薬

6月 春の四薬

8月 関西薬学生大会

8月 全国薬学生大会

11月 秋の四薬

マンドリン部

マンドリン部は毎週火・金曜日の18時から20時まで、奏楽館にて活動しています。現在は4年次生5名、3年次生6名、2年次生5名、1年次生14名が所属し、毎年10月に行われる定期演奏会に向けて技術の向上を図っています。

2012年度は春に入学式で祝奏を担当させて頂き、部員一同よい経験になりました。

また、他大学との合同演奏会では、京都府内の同じ大学生と交流を深めることが出来ました。

そして10月20日には、第84回定期演奏会を執り行いました。1年間の集大成である演奏会でしたが、部員皆の努力が花開き、そして多くの方々のご協力によって無事に終えることが出来ました。心よりお礼申し上げます。

硬式庭球部

私たちは現在男子9人、女子6人の計15人で活動しています。夏の大会に向け、初心者・経験者関わらず、レベルアップを目指して日々練習中です。

また、テニスを通じてOB・OGの先輩方や、地域の方々、そして他大学とも盛んに交流を深めています。

応援どうぞよろしくお願いします。

<関西薬学連盟硬式庭球大会>

2012年 男子団体 3位

個人 優勝、4位

女子個人 3位

柔道部

～試合成績～

<第66回関西薬学生連盟柔道大会>

団体戦 優勝

個人戦 1位 塚原 大樹 (6年次生)

2位 花井 拓斗 (1年次生)

3位 小西 一誠 (4年次生)

当部は、平成14年に最後の部員が卒業して以降、10年近く休部状態にありましたが、我々現役部員が平成23年に活動を再開しました。

師範のご指導や、OBの方々のご助力もあり、再開後、初めてとなる大会において、上記のように団体戦優勝、個人戦上位3位ともに独占することができました。

「柔道を楽しむ」を標語とし、健全な人格を形成することを目的に、日々稽古に励んでいます。少しでも興味のある方は、是非練習を見に来て下さい。詳しくは、HPをご覧ください。

<http://judokpu.wordpress.com/>



ユーベルコール部

私たちユーベルコール部員はみんな楽しく練習しています。

昨年の11月には第49回定期演奏会、12月には1年次生が主体で開かれたクリスマス会を終え、新しい年を迎えました。

今年も卒業式・入学式での学歌、4月には体育館での新歓コンサートを控え、練習をしています。

また、今年の11月30日には第50回記念定期演奏会を京都コンサートホールで行います。5年に1度の節目でOB・OGの先輩と合同のステージもあり、部員一同気を引き締めてより一層練習に励みたいと思います。是非お越しください。

京炎 そでふれ！京躍華

こんにちは！京炎 そでふれ！京躍華です！

私たちは10月7日に行われた第10回京都学生祭典京炎 そでふれ！全国おどりコンテストにおいて優勝をいただくことができました。応援してくださったみなさん、祝ってくださったみなさん、ありがとうございました！

「京炎 そでふれ！」とは京都らしい曲、振り、衣装で四竹という鳴り物を手に持って踊る創作オリジナル踊りです。京都の学生約900人がこの京炎 そでふれの踊りをやっていて、「京都を盛り上げ 新しい学生文化を全国・世界へ発信する」という大きな夢があります。その夢のもと、日々の練習はもちろん、小学校や老人ホーム、地域のお祭りで披露をし、おどりを教えたりなどの地域活動や、他県でのお祭りなど、さまざまな活動をしています。また今年で京躍華は6代目となり「みんなから愛されるSINチーム」という目標を掲げてきました。まずは自分たちが、そして学校から、山科から、お客さんから…さまざまな人から愛されるチームを目指して活動してきました。

今回優勝をいただいたのは私たちが約1年かけて作り上げた京躍華2012年度オリジナル演舞「絆咲」（きずな）です。曲、振り、衣装をすべて一から自分たちで作っています。山科に根付いたチームになりたいという思いから、ここ山科に伝わる伝説、深草少将と小野小町のお話である「百夜通い」を題材としています。ただ私たちが踊るだけでなく、この演舞を通してお客さんに私たちの想いを伝えたい！とメンバーで一丸となってきました。一緒に笑って、つらいこともわかちあって。そんな仲間が家族が、そばにいること。いつしかそんなことがあたりまえになっている。でもそれはすごい奇跡なことでは決してあたりまえなことではありません。そんな奇跡を、幸せを、目には見えない絆がそこにあることを気付いてほしい。そんな想いを込めて、

「大切な人がそばにいる喜び、絆」をテーマに躍りを通してお客さんに伝えたく、精一杯演舞しました。

私たちの活動を応援してくださっているみなさん本当にありがとうございます！まだまだ私たちの活動を知らない方も、どこかで京炎 そでふれ！京躍華を見かけましたらぜひ足をとめて演舞をみてください。

これからもここ山科に、京都に、たくさんの笑顔をお届けられるように私たちはまだまだ躍動躍進し続けます！そしていつしか全国、世界の人たちにも踊りを通して想いを届けられる日を夢見て！

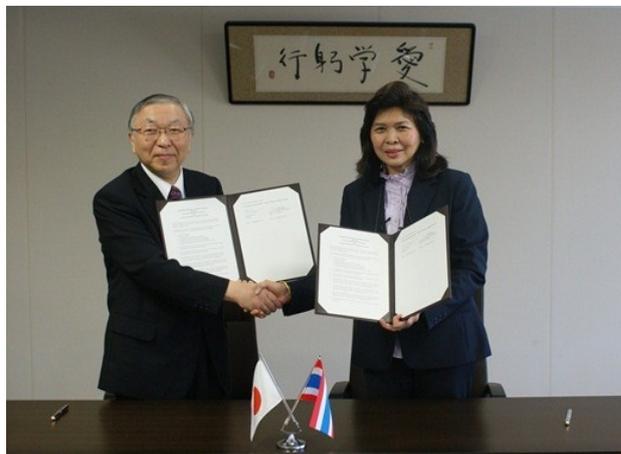


タイ王国のMahidol Universityと 学術交流協定を締結

本学とMahidol University（タイ王国）は、2012年11月8日に学術交流協定を結びました。

本学にて乾賢一学長、竹内孝治副学長、吉川雅之教授、山本昌教授、矢野義孝教授、およびMahidol UniversityのChuthamane Suthisisang薬学部長らの立会いのもと調印式が行われました。

両大学は今後、学生交流および研究交流を行っていく予定です。



第7回国際サイトプロテクションシンポジウムに参加して

薬物治療学分野 6年次生 木村 有希・5年次生 北原 夢乃

2012年9月11日から3日間にわたって行われた、竹内孝治教授主催による7th International Symposium on Cell/Tissue Injury and Cytoprotection / Organoprotectionにて発表するため、竹内孝治教授、佐藤宏客員教授、天ヶ瀬紀久子助教、村上季子院生とともにハワイへ向かいました。

ワイキキは、ご存じの通り、かつてハワイの王族が避暑地として愛した場所でもあり、常夏で温暖な土地と言えど日本の初夏のような爽やかな気候です。また、ウミガメや様々な色をした熱帯魚が息するビーチがどこまでも続き、振り返るとダイヤモンドヘッドが壮麗な姿でたたずむ自然に恵まれた美しい街です。

参加したシンポジウムは、“Cytoprotection”概念の生みの親である故Andre Robert博士が創設した国際シンポジウムで、国際薬理学会消化器部門の協賛シンポジウムとして、世界の様々な都市で開催されています。今回は7回目となり、消化管及び薬理学分野における世界的に著名な先生方が11カ国から集まり、特別講演を含む、最新の知見57題の発表が行われました。特別講演4題のうちの1題は、元ミシガン大学医学部教授であり、グラクソスミスクラインやビル&メリнда・ゲイツ財団で活躍され、現在武田薬品工業・取締役・チーフメディカル&サイエンティフィック オフィサーのTachi Yamada博士が、「Perspectives on a career in gastrointestinal research」というタイトルでご講演下さいました。

私たち学部生は皆、国際学会への参加・発表は初めてだったため、相手に伝わる発表ができるか、正確に質問を聞き取り、伝えたいことを伝えられるか、マイクの前に立つまではとても不安でした。実際、本番では緊張してうまく言えない、質問が正確に聞き取れず、聞き取れてもうまく返答できないなど、もどかしい思いをしました。この経験を通し、英語で発表することの難しさを知るとともに、準備の大切さなど多くの課題をみつけました。また、学会には論文等で拝見する著名な先生方が多く参加されており、そのような方々の白熱したディスカッションを目の当たりにし、世界の研究者同士がどう意見を言い合い新しい発想を生み出しているのかを身をもって知ることができました。そのような場に

出席させていただいたことがとても嬉しく、大変貴重な体験となりました。また、今回のシンポジウムは竹内教授が実行委員長であったこともあり、学会運営のお手伝いも経験できました。スライド映写や照明、受付や会場の案内など、英語での対応でしたが、笑顔とジェスチャーでなんとか乗り切れたと思います。

私たちは学会中であつた少しの空き時間に、バスに乗って、エルビス・プレスリー主演の映画「ブルーハワイ」の舞台ともなった海洋公園、ハウナマ湾へ行きました。ハウナマ湾は3万5千年前の海底火山の噴火による火山鍾が浸食を経てできあがった湾で、湾全体が海洋生物保護区として保護されています。かつて観光客の餌付けによりバランスを失ったハウナマ湾から魚が離れていったそうですが、現在では餌付け禁止法が施行され、シアターでその経緯と法律の意味について学んでから入場することができます。私たちは、人の手で一度壊してしまったバランスを、人の手で取り戻し美しい海へと戻ったハウナマ湾に思いをはせながら、わずかの時間、シュノーケリングをし、警戒することもなく近寄ってくる色とりどりの熱帯魚とサンゴ礁の散策を楽しみました。帰り道のバスでは、なまりの強い早口の英語でアナウンスされるバス停の名前を聞き取ることができず、近くにいた現地の男性に、助けて頂きました。さらに、その男性には、通り過ぎる場所についても、私たちに丁寧に説明して下さいました。この方だけでなくハワイの人々は皆、陽気で温かく、この美しい町が人々をそうさせるのではないかと考えずにはいられませんでした。

今回の国際シンポジウムへの参加を通し、研究への姿勢や語学力、コミュニケーションの大切さを改めて学ぶことができました。このような学会発表の機会を与えて下さいました竹内教授、また学会の参加にご配慮いただいた理事長、学長をはじめ、大学関係者の方々に深く感謝いたします。



会場の様子

左上（木村）、右上（野村祐介/6年次）
左下（和田彬光/6年次）、右下（北原）

IPSF World congress (国際薬学生連盟世界会議)・FAPA (アジア太平洋薬剤師学術大会) に参加して
3年次生 阿部 誠也

2012年8月、IPSF (国際薬学生連盟) が毎年開催している世界会議に出席してきました。今年の開催地は政情不安定が続くエジプトでした。それにも関わらず日本からは、IPSFに加盟している日本薬学生連盟 (英語名: APS-Japan) から41名の薬学生が参加しました。

世界中の薬学生が集うこの大会ですが、本当に多くのことを学ぶことができました。

まず、世界中の薬学生との交流です。今までテレビや書物でしか見たことのなかったことが目の前に現実として広がっていました。私も個人でよく海外を旅しますが、これほど多種多様な人達が集まったのを目にしたのは初めてでした。

経済的に豊かな国もそうでない国も、世界の薬学の発展という一つの目的に向かって議論する姿はとても印象的でした。その光景を目にしていると、戦争のない世界にすることも不可能ではないのかもしれないとさえ感じられました。

世界会議では、各国の代表が集まって行う真面目な会議や著名な方をお呼びしての講演、世界の薬学生とのワークショップ、また、空いている時間を利用して砂漠サファリに行ったり、夜は毎日パーティがあったりと、時に真面目に時に楽しく、とてもメリハリのついた10日間を過ごすことができました。

9月にはFAPA (アジア太平洋薬剤師学術大会) に日本薬剤師会の下、参加してきました。開催場所はインドネシア・バリ島。ここでも、アジアの薬学生を中心に多くの方と交流を図ることができました。みなさんはアジアの薬学生というどのような印象をお持ちでしょうか？ 私が、アジアの薬学生と実際に接して感じたことは、アジアの薬学生はとても優秀であるということです。全てではありませんが途上国は英語の教科書を使い、英語で薬学を学びます。したがって、当たり前のように英語を話せます。学術大会が終わった夜、アジアの薬学生とともにインドネシアのカラオケ店に行ったとき、当たり前のように英語の歌を歌う彼らに驚いてしまった自分が恥ずかしい思いをしました。もちろんインドネシアの母国語はインドネシア語です。英語を使って先進諸国に追いつこうと、とてもグローバルな思考で熱心に勉強しています。このような大学生は日本ではあまり見かけません。

日本は今、高齢社会、医療の崩壊など、様々な課題に直面しており、課題先進国とも言われています。これら問題を解決する術を国内だけに求めるのではなく、視野を広げ、グローバル思考で課題に立ち向かわなくてはいけないのではないのでしょうか？日本がこれらの課題をどう解決するかは世界中から

注目されています。進むIT化によって世界が一つになろうとしている今、世界に目を向けるということはとても重要なことだと思いますし、今回の経験は非常に貴重な財産です。

来年の IPSF (国際薬学生連盟) の世界会議はオランダで行われます。IPSFの本部がオランダにあるということもあり、今までにない素晴らしい世界会議になるのではないのでしょうか。また、アジア太平洋薬学生シンポジウム (APPS) が2013年8月になんと日本で開催されます。アジア太平洋地区の薬学生が日本に集うとても貴重な機会です。ぜひ、これら貴重な経験を皆さんにもしていただきたいです。日本では日本薬学生連盟 (APS-Japan) が問い合わせの窓口になっているので気軽にネット検索や問い合わせをしてみてください。



集合写真



講演風景



日本のメンバーと

受賞・掲載

日本薬剤師会賞を受賞

京都府薬剤師会の会長としての功績が称えられ、乾賢一学長が日本薬剤師会賞を受賞しました。



演者：小島 直人、大槻 一文、伏見 哲也、立川 貴啓、戸田 雄也、好光 健彦、田中 徹明、岡村 睦美、矢守 隆夫、岩崎 宏樹、山下 正行



第3回アジア環境変異原学会において Best Poster Awardを受賞

第3回アジア環境変異原学会において公衆衛生学分野の渡辺徹志教授がBest Poster Awardを受賞しました。受賞内容は下記の通りです。

演題: Trans-boundary Air Pollution with Genotoxic Compounds in East Asia
 演者: 渡辺 徹志、クウリバリ スレイマン、長谷井 友尋、船坂 邦弘、浅川 大地、世良 暢之、盛山 哲郎、木戸 瑞佳、鳥羽 陽、早川 和一、唐 寧、趙 利霞、鄭 海泳、渡辺 仁成、若林 敬二



日本生薬学会学術貢献賞を受賞

生薬学分野の松田久司准教授が平成24年度日本生薬学会学術貢献賞を受賞しました。本受賞は、松田准教授が一貫して進めてきた伝承薬物から生活習慣病予防物質の探索研究が高く評価されたものです。2012年9月17日に授与式が行われ、翌18日に受賞講演が行われました。



演題：伝承薬物から生活習慣病予防物質の探索研究
 演者：松田 久司

7th International Symposium on Cell/Tissue Injury and Cytoprotection/Organoprotection においてポスター優秀賞を受賞

2012年9月9～11日に、米国ホノルルにて開催された7th International Symposium on Cell/Tissue Injury and Cytoprotection/Organoprotectionにおいて、薬物治療学分野5年次生の北原夢乃さんが、ポスター優秀賞を受賞しました。

演題: Lubiprostone prevents NSAID-induced small intestinal damage by suppression of inflammatory mediators' expression via EP4 receptors
 演者: Yumeno Kitahara, Naoto Kurata, Shusaku Hayashi, Kikuko Amagase, Koji Takeuchi

第19回天然薬物の開発と応用シンポジウムにおいて優秀発表賞を受賞

第19回天然薬物の開発と応用シンポジウムにおいて薬品製造学分野の研究発表が優秀発表賞を受賞しました。当分野では熱帯・亜熱帯産のバンレイシ科植物から単離されるアセトゲニン類をモチーフとする新規抗がんリード化合物の創製研究を展開しており、その研究成果が高く評価され今回の受賞に至りました。

演題：ハイブリッド型アセトゲニン類の合成と抗腫瘍活性評価

第6回日本腎臓病薬物療法学会学術集会 において優秀演題賞を受賞

2012年9月15日（土）～9月16日（日）に第6回日本腎臓病薬物療法学会学術集会がロイトン札幌にて開催されました。本学術集会において、下記タイトルでポスター発表した臨床薬学分野5年次生 勝部友理恵さんの研究内容が、優秀演題賞を受賞しました。末期腎不全患者において生じる、イリノテカンの活性代謝物SN-38の最大血中濃度上昇メカニズムについて言及した点が、今後の末期腎不全患者治療に貢献すると評価されました。

演題：「カルボキシシルエステラーゼを介したイリノテカン代謝に及ぼす末期腎不全患者血清の影響」

演者：○勝部 友理恵、辻本 雅之、落合 愛、小出 博義、北条 亜矢子、永野 唯、初井 佳奈、志摩 大介、古久保 拓、和泉 智、山川 智之、峯垣 哲也、西口 工司



(右) 筆頭演者：勝部友理恵さん
(左) 共同演者：北条亜矢子さん

第62回日本薬学会近畿支部総会・大会 において優秀ポスター賞を受賞

2012年10月20日に武庫川女子大学薬学部浜甲子園キャンパスにて開催された第62回日本薬学会近畿支部総会・大会において本学の学生4名が優秀ポスター賞を受賞しました。

所属分野：薬品物理化学分野
受賞者：4年次生 山田 朝子
演題：脂質ナノディスクを用いた新規核酸医薬デリバリーシステムの開発
演者：○山田 朝子、光枝 亜左子、土谷 博之、濱 進、原島 秀吉(北大院薬)、小暮 健太郎

所属分野：薬品物理化学分野
受賞者：4年次生 原口 直子
演題：カンナビノイド受容体1アンタゴニストによる脂肪細胞分化抑制メカニズムの検討
演者：○原口 直子、植田 奈都美、土谷 博之、濱 進、小暮 健太郎

所属分野：衛生化学分野
受賞者：5年次生 森崎 恵理
演題：ラット脊髄後根神経節におけるorganic cation/carnitine transporters OCTN1及びOCTN2の発現解析
演者：○森崎 恵理、菅野 昇平、松尾 剛明、西田 健太郎、長澤 一樹

所属分野：薬品分析学分野
受賞者：6年次生 中村 友紀
演題：フルタミド封入脂質ナノエマルジョンのゼータ電位に及ぼすフルタミドおよびpHの影響
演者：○中村 友紀、戸野谷 文音、武上 茂彦、小西 敦子、北出 達也

第6回次世代を担う若手医療薬科学 シンポジウムにおいてポスター賞を受賞

2012年11月23日・24日に京都大学大学院薬学研究科にて開催された第6回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム「異分野の融合と相互作用による医療薬科学研究の更なる発展を目指して」において、薬品物理化学分野の薬科学専攻博士前期課程2年次生 中村伊吹さんがポスター賞を受賞しました。

受賞者：薬品物理化学分野
薬科学専攻博士前期課程2年次生
中村 伊吹
演題：Identification and functional analysis of lipocalin-2 as a useful biological marker for hypoxic tumor
共同研究者：中村 伊吹、濱 進、板倉 祥子、高崎 一郎(富山大学)、土谷 博之、田渕 圭章(富山大学)、小暮 健太郎

週刊東洋経済「本当に強い大学2012」 就職率ランキング(近畿・理系)において 本学が第1位にランキングされました

東洋経済新報社出版発行2012年10月27日【特大号】週刊東洋経済の特集記事「本当に強い大学2012」において、就職率ランキング(近畿・理系)では第1位、就職率ランキング理系ベスト100では4位、総合ランキングTOP300では42位に本学がランキングされました。ランキングの詳細は本学ホームページをご覧ください。



第18回京都薬科大学公開講座開催

2012年11月10日（土）、躬行館T31講義室において、第18回京都薬科大学公開講座を開催いたしました。はじめに乾学長の挨拶があり、その後、「放っておかないで、こんな胸部症状 ～心臓からのメッセージ～」というテーマで、本学臨床薬理学分野の小原幸准教授による講演が行われました。胸痛、動悸、息切れといった症状が示す心臓の不調の見分け方などについてわかりやすい説明が行われ、約120名の参加者は、熱心に耳を傾けていました。

その後、場所を体育館に移し、健康科学分野、武田病院及びキリン堂のスタッフによる「健康度チェック」や本学OBによる「くすりの相談」「漢方薬の相談」、本学の教員による「健康相談」のコーナーが設けられました。また、展示コーナーでは、京薬の歴史と題して、当時の本学の様子分かる写真や関連資料を展示いたしました。

例年同様、健康度チェックではそれぞれのコーナーで順番待ちのところも出ていましたが、参加者は各コーナーを巡回しスタッフの熱心な説明に聞き入るなど大変好評でした。毎年度リピータが多く見られ、健康に対する関心の広がりが見られました。また、本学での開催も15回目となり、「毎年、薬大の公開講座を楽しみにしている」「また来年も参加したい」「お薬のことを相談出来て、とても良かった。」といった感想が多く聞かれ、地域に開かれた大学として、地域に定着してきたことが感じられました。



小原准教授による講演の様子



健康度チェック

2013年度推薦入学試験結果

2013年度推薦入学試験の内、指定校制推薦入学試験が2012年11月12日（月）に、一般公募制推薦入学試験は11月17日（土）に実施され、11月27日（火）に合格発表が行なわれました。

その結果は次のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	53名	53名
一般公募制推薦	80名	294名	80名

お知らせ

2012年度動物慰霊祭

10月25日（木）午後2時から動物慰霊祭を、学内の慰霊碑前において執り行いました。

当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、慰霊碑前で読経をいただきました。お天気にも恵まれ、武田理事長、乾学長、山本動物研究センター長をはじめ職員、また大変多くの学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめ、冥福を祈りました。

人事

採用

事務局次長（事務局企画・広報課長事務取扱）

松田 敏

薬学教育系教育研究総合センター

学生実習支援センター

助教 小関 稔

（以上 2012. 10. 1付）

事務取扱

事務局学生課長事務取扱

事務局次長 松田 敏

（2012. 11. 1付）

昇任

分析薬科学系薬品分析学分野

准教授 武上 茂彦

（2013. 1. 1付）

事務局入試課

主事 奥村 亮

（2012. 10. 1付）

兼務解除

事務局企画・広報課長兼務解除

事務局庶務課長 山下 豊彦

（2012. 9. 30付）

退職（死亡）

基礎科学系一般教育分野

教授 抱 喜久雄

（2012. 9. 20付）

退職

生命薬科学系衛生化学分野

助教 松尾 剛明

薬学教育系教育研究総合センター

学生実習支援センター

助教 小関 稔

（以上 2012. 9. 30付）

分析薬科学系薬品物理化学分野

講師 土谷 博之

（2012. 12. 31付）

京薬会だより

<ホームカミングデーの開催>

本年も京薬祭開催中の11月3日(土・祝)に第3回目の「ホームカミングデー」を開催しました。本年は旧教員(定年退職された旧教授)、現教職員、卒業生、在学生など約100名にのぼる参加者を得て大変盛大な会となりました。本年は第一部として武田理事長、山下学生自治会会長の歓迎挨拶の後、乾学長による大学の近況報告があり、ファーマシスト・サイエンティスト育成への取り組みが紹介されました。それに引き続き「花粉症」と題する本学名誉教授 河野茂勝先生による講演、また「京薬のいま・むかし」と題する京薬会会長 西野武志先生の講演があり、参加者の皆さんは熱心に聴いておられました。その後、躬行館食堂に場所を移し歓迎パーティー、その後、参加された皆さんは京薬祭の種々の企画に参加し、また学生による模擬店での在学生との交流を深めておられました。この催しも年々盛大になってきており、さらに新しい企画も考えていきたいと考えていますので、来年は是非もっと多くの卒業生の皆さんが御参加いただきますようお願いし

ています。

<優秀クラブ表彰と特別表彰>

京薬祭のオープニングに合わせて本年も優秀クラブ表彰ならびに特別クラブ表彰を行いました。今年の優秀クラブには卓球部、ユーベルコール部そして陸上競技部が選ばれました。選ばれた各クラブには京薬会西野会長より表彰状ならびに副賞が贈られました。

<公開講座>

毎年、京薬会も後援している公開講座が11月10日(土)に開催されました。「放っておかないでこんな胸部症状～心臓からのメッセージ～」と題して、本学の臨床薬理学分野小原幸准教授が講演され、来場された皆さんは熱心に聞き入っておられました。また、健康チェックなども行われ、皆さんの健康に関する関心の高さを認識させられる一日となりました。

京都薬科大学奨学寄附金ご芳名録

下記の方々から寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、ご芳名のみ掲載しております。

2012年9月～2012年11月に寄附をお寄せいただいた方々

<卒業生・同期会等(卒業年次順)>

青木 長夫(昭16)	谷本 博子(昭34)	森脇 順子(昭42)	岡本 節子(昭49)	浅野 元(平09)
石黒 道彦(昭19)	安田 晃三(昭34)	匿名希望(昭42)	斉藤 保(昭51)	安宅 弘充(平13)
井上 隆夫(昭22)	上田 文亮(昭35)	渡辺 温(昭43)	三上 正(昭52)	徳重 朋子(平14)
小財 勲(昭24)	渋谷 禎彦(昭35)	高越 清昭(昭44)	森 一二美(昭52)	芥川 直樹(平15)
大澤 裕通(昭26)	岡 カヅ子(昭38)	佐藤 耕作(昭45)	辻尾 邦恵(昭55)	数野智恵子(平20)
岩城 宗吉(昭28)	山下 慶子(昭38)	佐藤 史(昭45)	井阪 康之(昭57)	木本正七郎先生
安藤 寛治(昭29)	鈴木須美子(昭39)	木島 早苗(昭46)	作田嗣奈子(昭57)	同門会一同
磯矢 敬一(昭31)	六車 昭美(昭39)	野村 誠子(昭46)	上荷 裕広(昭60)	京薬会
田中 隆(昭32)	貴宝院善博(昭41)	笹野 紀美(昭48)	匿名希望(平04)	
森本 幸子(昭33)	谷口 睦子(昭42)	岡 佳子(昭49)	杉山 忠勝(平06)	

<法人役員・評議員・職員(五十音順)>

乾 賢一(学 長) 大原 松雄(監 事) 松田 久司(准教授)

(2012年11月30日現在)